

現庁舎の利活用について ～あったらいいなこんな場所～ 会議概要

【開催日時】 平成29年4月3日 午後7時30分～午後9時15分

【開催場所】 ハイトピア伊賀3階 ホールA・B

【参加者数】 69名

【出席者】 伊賀市長 岡本 栄
伊賀市副市長 大森 秀俊
産業振興部長 尾登 誠
産業振興部次長 東 弘久（進行）
産業振興部中心市街地推進課長 堀川 敬二（説明）
教育委員会事務局次長 児玉 泰清
教育委員会事務局教育環境政策監 藤山 善之
教育委員会上野図書館長 西尾 育夫
前教育委員会上野図書館長 清水 由美
企画振興部文化交流課長 滝川 博美

【配布資料】 資料1 現庁舎の活用案について ～あったらいいなこんな場所～
資料2 賑わい創出事業スケジュール（修正案）

【説明概要】 産業振興部中心市街地推進課長 堀川から資料1及び資料2に基づき市（行政）の調整案について説明を行った。

- ・ 1-1 伊賀市は将来的に人口減少、少子高齢化、若者（生産年齢人口）の減少による税収の減が危惧される。これは福祉、教育、インフラなどに影響する。
- ・ 1-2 伊賀市では「来たい、住みたい、住み続けたい“伊賀”づくり」を目指し、ひと、まち、しごとの創生に取り組み、現庁舎の活用はこれらすべての関わる重要な施策となる。
- ・ 2 これまでの経過はスライドのとおり。今回の説明会で、市民に市（行政）の調整案を説明し、意見を伺いたいと考えている。
- ・ 3-1 市では7分の7、1年、365日、朝から夜までの賑わいを目指している。休日と平日の賑わいが融合する施設を作ることで実現したいと考えている。
- ・ 3-2 7分の7の賑わいを目指すため、6つの機能を複合施設として整備したいと考えている。
- ・ 4-1 6つの機能のうち、図書館を核としたいが、現在の図書館は課題が多いため滞在型の図書館が求められており、実際の活用案についてドコモモジャパンからの提案もいただいている。（模型は南庁舎2階に展示）
- ・ 4-2 図書館は、他の観光施設に比べると、休日と平日の入館者の差が小さい。近年リニューアルされる図書館は様々なニーズに応えられるようになっており、他の機能との連携も期待される。

- ・ 4-3 他の図書館のリニューアル事例を提示。
- ・ 4-4 三重大学の国際忍者研究センターの導入を検討している。世界で唯一の施設となり、日本中、世界中から人が集まることを期待している。
- ・ 4-5 大手コーヒーチェーンから入居したいとの希望を受けている。ただし、南庁舎が保存されることが前提となる。
- ・ 4-6 その他の機能について紹介。これらが連携するために観光案内や情報発信も充実させ、周辺地域への誘導も図りたい。
- ・ 5-1 必要な機能のための面積を提示。合計6,000㎡程度必要と想定しており、現庁舎(5,927㎡)のリニューアルで対応できると考えている。
- ・ 6 市(行政)の調整案のまとめを紹介。
- ・ 7-1 リノベーションのメリットをまとめている。費用が安価であること、耐震・耐久性が第三者機関により検証されていることを紹介。
- ・ 7-2 南庁舎の建築様式(モダニズム建築)や、設計者坂倉準三に関する評価が高まっていることを紹介。
- ・ 7-3 7-2と同様。
- ・ 7-4 各機能の来館予想の積み上げにより、現在より約26万人の賑わい増加が見込まれる。
- ・ 7-5 来館予想に基づき、経済効果を試算している。市(行政)の調整案の場合、31億円の経済効果が見込まれ、波及効果も期待される。
- ・ 8-1 市(行政)の調整案を採用するまでに提案された案の比較をしている。
- ・ 9-1 8-1の各案について、項目別に比較している。

(スケジュールについて)

財源確保のために合併特例債を活用したいと考えているが、市(行政)の調整案は活用可能であるため◎、賑わい協主案は工期が間に合わず×、議会案は工期は間に合うが、解体・新築の場合埋蔵文化財調査が必要となる可能性があることから△としている。

(来館予想について)

7-4の資料に基づき来館予想を比較しているが、市(行政)の調整案については、大手コーヒーチェーンによる集客でさらに増加する可能性があることから◎としている。

(経済効果について)

7-5に基づき経済効果を比較しているが、三重大学、大手コーヒーチェーンによる集客でさらに増加する可能性があることから◎としている。

(三重大学について)

6,000㎡の規模が確保できなければ入居スペースがないため、議会案は×としている。

(大手コーヒーチェーンについて)

入居の条件が南庁舎の保存であることから、市(行政)の調整案のみが◎と

なる。

・ 9-2 9-1の続き

(文化的価値について)

南庁舎が解体されると文化的価値が喪失されるため、市(行政)の調整案のみが◎となる。

(整備費用について)

費用の比較をしているが、整備費に対して交付金や合併特例債を勧案すると、市(行政)の調整案が最も安価に整備することができ、市民1人あたりの負担額も小さくなる。

また、費用対効果については、仮に1億円の投資をした場合、最も大きい効果があるのが市(行政)の調整案となる。

(優位性について)

これらのことを総合的に勘案して、市(行政)の調整案が最も優位性が高いと言えることから、この案を提案している。

- ・ 最後に 平成29年2月に議会に提示したスケジュールを提示している。合併特例債の活用を見込むと、非常に厳しい状況となっており、今後は「基本計画」「基本設計」「実施設計」の一括発注などにより工期の短縮に努め、間に合わせたい。

【質疑応答】 説明に対して参加者から質疑を求め、担当者が回答した。

- ★参加者 この説明会は出来レースのように感じる。設計者が誰であろうが市民にとっては関係なく、庁舎を解体してコンパクトな施設を作ればいい。
伊賀市は観光都市と言っている割には食事処がないので、お城、忍者博物館、俳聖殿を観光の中心として、城内に土産物屋やレストランを作るべき。
- 堀川 4-2の比較表を見ると図書館の入館者が、観光施設に比べて差が少ないことがわかる。観光都市であるものの、平日も賑わわないと成立しないので、図書館機能を核としており、観光案内や情報発信の機能とあわせて伊賀市全域が賑わうように考えている。
更地にするという意見もあるが、更地にしてしまうと賑わいは一切生まれない。
- ★参加者 今後の賑わいを作るという説明であったが、説明を聞いてもおもしろい施設と思えない。
N I N J A フェスタを開催し、忍者市宣言もしているが、取り組みはこれまでと変わっておらず、せっかく着替えた子どもたちが遊ぶ場所がないと言っている声も聞く。道の駅のように物産を売ったり、オーガニックスーパーを入れるなど根本的に考え直してはどうか。建物の話ばかりになると建設的でない。

- 堀川 説明では触れていなかったが、三重大学での研究成果の企画展として「忍者ってナンジャ」を実施した際、多数の来場があった。忍者市宣言をしたこともあり、ホンモノを見せることで多くの人が集まると考えている。
- ★参加者 周辺地域に住んでいると、車に乗れなければ図書館などの施設に来ることができないため、仮に図書館が整備されたとしても交通環境が改善されなければ来ることはない。
交通環境が改善されたとしても、中高生は忙しいため図書館に集まるとは思えず、特に大学生になると伊賀から出て行くので図書館には余計行かなくなる。
- 堀川 今回は施設を整備するための説明をしているが、公共交通の充実についても重要と考えており、周辺地域からの来館、周辺への波及効果のため、大きな課題ではあるが取り組んでいきたい。
- ★参加者 説明を聞いて、よく考えられていると思う。
坂倉建築は貴重で、日本でも数少ないもので、解体した場合二度と作ることができない。また、現在の財政状況から考えても建て替えには余計な費用がかかる。
この点から提案には賛成するが、もっと早く市民に説明してほしかった。議会に対してもきちんと説明する努力が不足していたのではないかと。
今後、新議員をはじめ議会にどのように説明していくつもりか。
- 尾登 議会に対してはこれまで何度か説明をしてきたが、現時点で予算が認められていない。そんな中、基本に戻って改めて説明しようとするのが今回の場であり、議会に対しても丁寧に説明していきたい。
- ★参加者 技術的な質問になるが、コンクリート建造物で50年以上が経過した南庁舎で、内部的な欠陥を見つけ、対応することは極めて困難と考えるが、対応は可能なのか。また、建築的に価値がある建物の外観を損ねることなく耐震強度を持たせることについても可能なのか。
忍者研究センターについて、南庁舎でなければならない理由が明確でなく、忍者一辺倒ではなく芭蕉翁記念館を設置するのはどうか。記念館であれば図書館より入館者が少ないと試算されているが、根本的に見直してほしい。
- 堀川 コンクリートの耐久性、建物の耐震性については、第3者機関できちんと検証されており、必要な改修を行うことで50年以上もつ建物に生まれ変わると報告されている。
外観デザインについて、具体的にはこれから検討となるが、デザインを維持しながら可能な耐震工法について検討したい。
三重大学について、大学側とも協議をしてきたが実施時期や施設の規模など総合的に勘案して南庁舎に入居することがベストであるということで双方が一致している。
芭蕉翁記念館に関しては、専門機関による来館予想等も行った上で、図書館

より来館が下回ると想定されるため、図書館を導入することとしている。

大森

芭蕉翁記念館に関しては、現状数百㎡の規模で、年間1万人程度の入館となっている。市では図書館が移転した跡地をリノベーションして新たな芭蕉翁記念館を整備したいと考えており、近隣の生家、愛染院、などと連携した回遊ルートができると考えている。

★参加者

説明を聞いたが、出来すぎているぐらい。これだけ出来ているならなぜ議会は反対したのか。行政からの提案は専門的過ぎて、いかにも良い、ということだけを言っている。

忍者より芭蕉のほうが世界的な知名度もあり、芭蕉関係の複合施設にしたほうが世界にアピールできるのではないか。

議会にこの提案を再度行って、予算案が通る自信はあるのか。

市長

今回の説明会には新しい議員も来られている。今まではこういったこともなかった。気分も一新して新たなところから考えていただけるものと考えている。

★参加者

芭蕉、忍者、様々あるが、ニュースでアメリカのクルーズ会社が企画して豪華客船の周遊コースに四日市港が選ばれ、その理由として忍者の里に近いという理由からという記事を見た。こういったことから忍者に対する価値は高いのではないか。国際忍者研究センターについて、本格的な取り組みが必要であると考えます。

意見のため回答なし

★参加者

庁舎は残してほしい。

仕事で資格を取る際、仕事をしながら伊賀市以外にも各地の図書館を巡り、本を借り、図書館で勉強した。図書館は必要になれば行く場所で、若者がハイピア伊賀で勉強しているのを見ると、たくさんの学生も集まる。若者は集まる場所を求めている。

庁舎に関しては、素晴らしいもので、構造やしつらえ、細部にも拘って作られており、少ない予算の中でよく考えられたもの。非常に勉強になる建物でもあるので、ぜひ残してほしい。

意見のため回答なし

★参加者

こういった説明については、各地域を回って地域の声を聞き、それを反映してほしい。

意見のため回答なし